

チャの新害虫「ミカントゲコナジラミ」

柑橘類の害虫ミカントゲコナジラミは、海外ではチャの害虫として知られていますが、これまで日本の茶園では発生が認められていませんでした。しかし、平成16年夏に京都府宇治市でチャへの寄生が確認されて以来、平成18年には滋賀県及び奈良県で、平成19年には三重県の茶園でも発生が確認される等、急速に被害地域が拡大しています。今後、全国のチャ栽培地域への拡大が懸念されており、その生態解明が求められています。京都府立茶業研究所では、その分布や生態状況などを明らかにしましたので、その概要について紹介します。

☆ 技術の概要

1. ミカントゲコナジラミの成虫は、体長約1.0～1.3mmで、雌は雄よりやや大型です。体の色は橙黄色、羽の色は紫褐色で白のまだら模様があります。新葉やすそ葉などの裏面に生息し、人の気配などの刺激を受けると飛び立ちます。卵は淡黄色～紫褐色、曲玉状で短い柄があり、葉の裏面に直立した状態で産み付けられます（図（1））。
2. 発生は、地域の気候やその年の気温によって異なりますが、成虫は4月から11月上旬にかけて3～4回発生し、5月、7月、8～9月、10～11月にピークが見られ、幼虫で越冬します。
3. ミカントゲコナジラミによる被害は、直接的には成虫と幼虫による茶葉への吸汁加害で、間接的には幼虫が甘露を排泄し、これが下位葉に付着して黒いカビを生じる「すす病」と、飛び回る成虫を収穫作業者が吸引する害です。
4. 農薬による防除適期は若齢（1、2齢）幼虫期で、3、4齢幼虫になると効果が劣ります。防除効果を十分に得るため、カンザワハダニ防除と同様、適用のある農薬400リットル/10aを葉裏にかかるように丁寧に散布します。なお、天敵として寄生蜂シルベストリコバチが有力視されています。

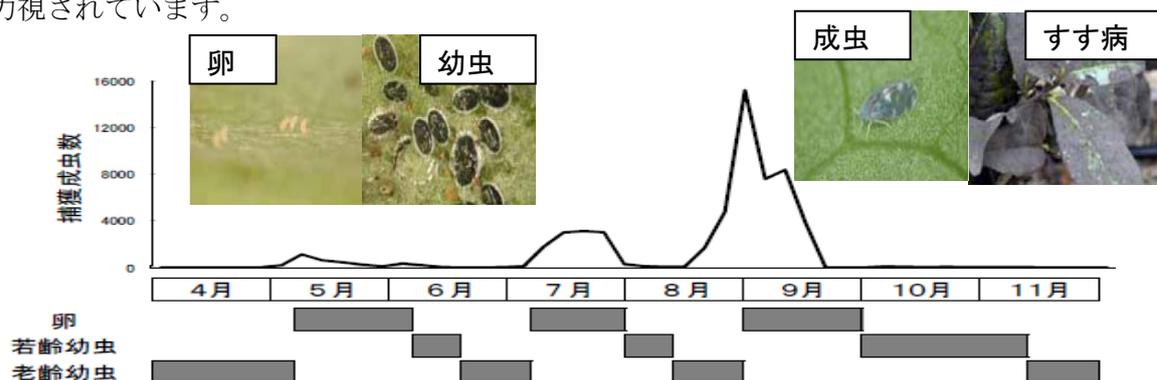


図 ミカントゲコナジラミの発生経過(平成18年調査) 京都府立茶業研究所

☆ 活用面での留意点

1. チャで本種に対する登録のある農薬は、アプロード水和剤、アプロードエースフロアブル、ハチハチ乳剤、ダニゲッターフロアブル、トモノールSの5剤です。
2. 詳しいことは、京都府立茶業研究所（電話 0774-22-5577）へお問い合わせ下さい。

（農林公庫 技術参与 袴田 勝弘）